

4年生、春の観察(校庭)から ～動物編

4月30日に、4年生が観察ビンゴカードを使って、春の校庭の生き物観察をしました。ビンゴカードがほとんど全部うまった、生き物探しの天才たちもいましたね。今回はその中で見られた生き物たちを紹介します。今はもう6月。これらの生き物たちがどう変わっているか？観察してみましょう。



①テントウムシ

ナミテントウの産卵を教えてくださいましたお友だちがいました。このテントウムシは、同じ種類なのに背中のもようがいろいろです。とても同じ種類とは思えないくらいに。卵から生まれた幼虫は、成虫とはかなり違った特徴を持っています。成虫のもようもいろいろですが、幼虫のもようも様々です。そして、右下はおなじみのナナホシテントウ。以前も紹介しましたが、これらの星の数の少ないテントウムシには、農作物の害虫を食べてくれるものが多いです。そのようすもいずれ紹介しましょう。



②花に来るハチ



フジの花が満開で、甘い香りに誘われて、ハナバチやハナアブの仲間がたくさん訪れていましたね。左はクマバチ、右はセイヨウミツバチ。花粉袋にいっぱい花粉がつまっていた。これらのハチはとてもおとなしく、手で捕まえたりしなければ刺しません。”クマンバチ”と呼ばれ恐れられているのは、このクマバチではなく(キイロ)スズメバチのことで。怖いハチ、おとなしいハチ、ハチに似たハチでない昆虫、ハチに襲われたときにどうしたらいいかなど、近いうちにまた特集しようと思います。

③外国から来た害虫、ヨコヅナサシガメ



第3号でも紹介したカメムシの仲間。サクラなどの幹でよく見かけられ、他の昆虫やクモの仲間をつかまえて食べますが、動きはのろく、木の幹と似た体の色がカモフラージュの役目を果たして、気づかれずにつかまえられるのだらうと考えられています。本来、東南アジアなど熱帯系の昆虫ですが、九州地方に侵入し、今では関東地方でも普通に見られるようになりました。右は、その死体を運ぶクロヤマアリです。



④その他



[理科支援員 宮内]

↑ スジモンヒトリ(か)の幼虫

↑ 背景により体の色やもようを変えるアマガエル。



ノースポールの汁を吸うアブラムシ →

← どぶの汚水にいたハナアブ類の幼虫

